

地域とのつながりを知る

6月17日の月曜日、櫛原神社の祭礼に伴う清掃活動が行われました。5、6年生が参加し、育友会の方も、先生方も子供たちと一緒に、お祭りで出たゴミの始末に汗を流してくれました。

櫛原神社の清掃活動については、本校の子供たちが活動を行う前に中学生も取り組んでおり、また、祭礼に関わった地域の方や保護者の方もいらっしゃったので、どうしても小学生の子供たちの手が必要かと言えば、そうとも言い切れないと思います。子供たちのために仕事を残しておかなくとも、そこにいる大人の力で一挙にやってしまった方が早く片付くのかもしれません。しかし、40年近くこの清掃活動が続いていることの意味を考えれば、地域の方々にはこの活動を通して、子供たちに祭礼あるいは地域の行事に関わってもらいたいという思いがあるのではないのでしょうか。子供の側に立ってみても、ただ祭りに出かけて楽しむだけにではなく、こうした奉仕活動をさせてもらうことによって、自分もこの行事に関わっているという思いを残すことができるように思いました。

小学生である子供たちは、登下校の見守り隊等、今は地域の方々からお世話になり、与えてもらう一方です。やがては地域のために、自分ができることを行うようになると思いますが、今できるささやかなことを地域に返しておくことも大切なことだと考えます。そして、こうしてわずかでも地域とつながりをもつことができると、大人になって地域に出て行くときにも、おおよその見当がついていたり知っていたりして、地域の活動に顔を出しやすくなることと思います。この清掃活動も、その一環として、学校と地域が連携し、子供たちにその機会をわざわざつくってやっているのではないかと思います。

子供たちは、大人になってこの地域に残る者ばかりではありません。進学や就職、結婚を機に、あるいは家を建てるときに、この地域を離れる子供も多いことでしょう。しかし、たとえそうであったとしても、地域や地域の行事に愛着をもち、祭礼等の大きな行事のときに帰ってきたり、一緒に参加したりできる大人になってほしいと思います。

(校長 村杉 一也)